



「支縁」について

神戸国際支縁機構 理事
京都大学名誉教授

水垣 渉

「しえん」という言葉は、聞いたときは分かりませんが、「支縁」という字面から真つ先に連想したのは「縁の下」という言葉でした。「縁の下」の力持ちの「縁の下」です。表にあらわれないところで人のために力を尽くすこと、

創刊にいたる活動

神戸国際支縁機構 代表 岩村 義雄

9・11テロから、痛めつけられた葦のような人々と共に生きていくために前身神戸国際支援機構が立ち上がりました。難民支援として、中東諸国、とりわけアフガニスタン、イラン、イラクの人たちとの連帯を模索しました。釜ヶ崎の労働者にボランティアのささやかな働きを続けました。「後ろ姿」でにつこりと、地道な活動を心がけてきました。

東日本大震災が発生すると、三日後には、マスコミ、地域、諸団体の協力を得て、支援物資を集めました。トラックに満載にして、

災害緊急車両の許可を得て、宮城県に向かいました。仙台でボランティア団体などから情報を収集し、最大の被災面積の石巻市に向かいました。神戸からの若者たちはメディアが報道する光景を目の前にして絶句しました。この世のものとは思えなかったからです。テレビ、新聞などではわからない強烈な死臭、ヘドロが目

という意味の成句です。昔の日本家屋は、縁の下をのぞき込むと、家をしっかりと支えている太い柱が見えました。こういう柱の一本になつて、人々の結び付きを下からいつまでもじつと支えていこうというのが、神戸国際支縁機構の名前の意味でしょう。たいそうな堅い名称という第一印象とは違って、本当は素足で土を踏むような泥臭い名前です。私はこの名前が好きです。



ただよっていました。

石巻市役所、ボランティアセンターを訪問。二十五人が犠牲になった釜小中学校にストープや石油を届けるように指示されました。人手がなかったのです。沿道には車がプラモデルのように積み重なり、押しつぶされていました。津波の威力のすさまじさの前に、自分たちは何ができるだろうか、打ちのめされました。人の気配が

などの粘膜につき、道路らしきものがなくなった市街地、被災した建物、財産、仕事、家族を失つて、へなへなど立ち上がれなくなった人々の目を見ました。被災した人々の眼光には死相が



させていたかと思しました。道中、冗談ばかり言っていた青年たちも唇もこわばり、口数が少なくなっていました。

佐藤金一郎氏(七十歳)と出会いました。道路のがれき処理をまず、依頼されました。二日間にわたり、約十cm、二十cm、一m、五十mと、車両が入るように、汗を流しました。冠水で浸かる中、ライフライン回復のために、黙々と作業をしました。助かった人々は、避難所にいます。

四トン車のインスタントラーメン、米、炭、石油、ストープ、おしめ、食料などを保管するため、ある家全体に置いていただきました。三か月間にわたって地元の方々に喜ばれました。渡波全区長末永秀雄氏から五月には感謝の意をいただきました。渡波の住民との交流が始まりました。

団体の名称を神戸国際支縁機構と変えました。一九九五年に阪神淡路大震災を体験した神戸と石巻が出会い、親交をもちました。途切れた社会の縁を何とか結び直さねばなりません。縁を支える別の糸が要るのかもしれない。いろいろな糸をよりあわせれば強くしなやかな縁になります。

七月、牡鹿半島のヒアリング調査のため、各学校を訪問。阿部捷一氏がかつて校長であつた

ないゴーストタウンの障害物を避けながら、進みます。道路は川となつていたり、見渡す限りがれきばかりです。三月二十一日(月)、石巻市渡波三丁目にさしかかり、何か



で贈呈式を行いました。渡波、塩富町で冠水を心配しないようになりました。

夏の終わりに、稲井土地改良区の主だった方たちと会合をもちました。九月に石巻市渡波地域農業復興組合ができ、阿部勝氏が代表となり、機構に田んぼの復旧、復興、再建の依頼が農家からありました。最初から参加している山本智也君、村上裕隆君が中心となつて、NPO田んぼや、兵庫県立農業高等学校の協力を得て、石巻市で除草、用水、排水ボランティア、苗床作り、田植えと作付けをしました。

二〇一二年一月、鈴木健一石巻森林組合代表理事組合長、宮城県漁業協同組合丹野一雄委員長と阿部勝代表の農林漁の三者会談が始まりました。小牛田農林高等学校の指導でコウノトリの「田んぼアート」を沢田地区でさせていただきます。

た。岩手県の佐藤正弘氏が寛大に十一種類の古代米を提供してくださったのです。



地域は、がれきすら残っていない村が続きます。

八月八日、石巻市役所で亀山絃市長、(株)日揮、JGCとの間

佐藤氏は、「六次産業」の言葉の産みの親でもあります。一次(生産)・二次(加工)・三次(販売)・六次により農の未来を切り開く先駆者です。

養殖のノリ、牡蠣の復興のボランティアのため、船で収穫に、網の修理、牡蠣養殖のホタテ殻の作業などを手伝ったりします。養蚕などを手伝いながら、いよいよ稲刈りとなります。

六月以降、町興しのために、在宅被災者の戸別訪問を始めました。一度も、行政や、ボランティアが訪問したことがない地域があります。地図作りに看護師や、女性たちが一軒ずつ丹念に地面をはいづばり、心のケアに仕えています。

九月の参加者十四名の内、初参加は五名だけでした。石巻と神戸が「縁」から「結」へと織りなしていますことを感謝します。

Let's 農(know) 林漁『田んぼとの出会い』

事務局員 山本 智也

二〇一一年九月、大学三年生の時から、農ボランティアを約一年させていただいて感じたことです。

子どもの頃から親戚、家族に農家をしている人はいませんでした。田園地帯を写真や景色として綺麗と感じるだけでした。津波で被害を受けた石巻市渡波の田んぼは作業によって人生観が大きく変わりました。毎回筋肉痛になるくらい重労働でした。

ましてや機械を使わずに手作業ではほとんど行なってきました。だからとても気が遠くなる作業です。現代社会で親しんできたゲームやアルバイトなどではバーフェクトに向けて頑張ります。しかし、農の場合はこれで完璧とか、マニュアルなど存在しません。自らの努力が結果を出すこともあれば、天候によっても左右されます。そのため普段僕たちが生活している世界とは違う世界です。直接、土や植物に手で触れて、人間の無力さを感じました。

企業や、ヴァーチャルな世界と比べて、第一次産業の農林漁の世界は大きく違います。相違は創造的か受動的かどうかです。会社などの組織では、教育実習を受け、社是に従い、給料に見合う仕事をするといった受動的な考えです。うまくいかないと誰かのせいにしてしまいます。つまり、損得の考えや、効率率が僕たちの頭を支配します。無駄なことは意味がないと切り捨てます。しかし、土を耕し、作付けなど、無から有を生み出す創造的な働きはすべて自分の責任です。また、責任転嫁をせず、他の人々の立場になつて考えることができます。つまり心を育てる環境が創造的な考えには生まれます。

学校ではなかなか創造的な考えは養えません。田んぼからは学べることが多いです。現代ではコンピューターやテレビなど誰かが創造したものを僕は便利だと感じていました。コンピューターなどにも学ぶことはたくさんあります。しかし、先人が築いてきた良い世界を忘れてコンピューターの世界に偏りすぎではないかボランティアは教えてくれました。

僕はこれから一世紀も生きられません。百回も田植えや稲刈りができないのです。せいぜい五十回くらいです。だから次の世代にも創造

株式会社 チュチュアンナ
代表取締役社長

上田 利昭

tutu.anna™

MiYOSHI

ミヨシ石炭株式会社

〒130-0021

東京都墨田区緑3-8-12

TEL 03-3634-1341



竹中工務店

www.takenaka.co.jp

新生田川共生会

(ホームレス自立支援の会)

東日本大震災以降、
神戸国際支縁機構に協力

的な考えが繋がるように田んぼをしていきたい
と思いました。

今回の東日本大震災が、神戸から共に行く
若者たちを次々と覚醒させました。神戸国際
支縁機構のひとりとして
加われたことを喜んでいま
す。瑞穂の国の多くの賢人
の方々や、先祖のように少し
でも若い世代の人に伝わる
ように務めていきたいと願っ
ています。



在宅被災者戸別訪問

事務局員 吉川 潤

当機構では農林漁の活動に
加えて、六月から在宅被災者の
訪問を始めました。震災と津波
の被害によって未だコミュニティ
が機能していない、伊勢、浜松、
黄金浜、渡波などを中心に新た
な地図を作る計画です。また在
宅被災者の心のケアのため寄り
添い、孤立死を防いで、命をつな
ぎ、一人ひとりに本当に必要な
支援の手の情報を記録し、地域の
再生へとつないでいくために何か
手伝えることはないかということ

も併せて伺うために一件ずつ訪問しています。
願わくば町の模型も作りたいと思っています。

お話を伺ったある女性の体験を紹介します。
Aさん(六十歳女性)

地震の時には、近所の水産加工の工場に勤め
ていた。地震後すぐに解散の指示があったので
比較的すぐに自宅に戻った。その後「津波が来

る」と人から聞いて渡波小学校まで避難に向
かうが、すでに津波が一階を抜けていた。

「学校も水がぶち抜いて行ったから、「入って
くんなくどこか逃げろ」とって叫ばれた。」

そこで小学校の近くの家の二階へ避難した。
「知らない家さ逃げた時は、子どもたちが車
の上に乗ったまま「助けてくれ」とって流されて
いくのを見た。でも私も降りて行かれないん
だもん。」

近所でも多くの方が被害に遭ったという。
「伊勢町地区で三十七人亡くなったって新聞
で見た。」

この近所でも、この向こうの家のお孫さん、後
ろの家もその隣のうちも一家みんな亡くなっ
た。そこはおじいさんとおばあさん、娘さんで
トラックに乗ってるのを見たのが最後。足が悪い
おばあさんでしたから。車ごと津波に持ってか
れて、向こうの家の後ろで三人とも遺体で見つ
かった。息子さんも村の消防団の活動によっ
て国道で亡くなった。」

その後、水が引くのを待ち小学校へ避難した。
「(学校には)三日しかいなかったけれど、一
つの教室に八十人くらい入れられた。座ること
ろがないくらいでした。食事の割り当ての時に
『教室と廊下で八十人分だから、一枚のパンを
四人で分けるように』って言われたもんだから
覚えてる。」

寒さと狭さで不安な数日を過ごした後、船
の仕事で海に出ていたご主人と、三日後に再会
出来た。また一週間の間は子どもの安否がわ
からなかった。自転車で、避難所へ行き情報を
集めるためにカレンダーの裏に書いて回った。テレ
ビ局やラジオ局にも問い合わせをしたという。
Aさん夫妻は、河南町の親戚宅、大曲の娘さ

ん宅に身を寄せ、今年の二月から自宅に戻って
いる。始めはもう元の場所に住みたくないても
思ったが、歳も考えて住むことにしたらしい。
「まだ自宅の改修は終わっていないんです。
お父さんとコンクリート流したり、納屋建てた
り…。今までやったことなのにな。この辺みん
なそうですよ。大工さん待つてられなくて、来
たり来なかったりだから。おかげで真っ黒になっ
て。」と笑顔を見せられる。

三月十一日から一年半以上が経とうとして
いる現状で、人々は壮絶な体験をしているにも
関わらず、心のケアは手つかずの状態と言えま
す。気丈に生きている人を前に無力感を感じず
にはいられません。しかし、私たちに吐露される
ことで抱えているものを軽くしたり、一歩踏み
出すきっかけにいただければと考えます。

神戸国際支縁機構

ボランティア募集中

毎月、被災地へ赴きます。農林漁、および在宅被災
者戸別訪問にご協力ください。詳細はホームページ。

会員になってください

会員(年度3月～翌4月)の皆さまには、季刊誌などを
お送りします。

助成 神戸市パートナーシップ活動助成、赤い羽根
「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」を
有効に用いています。

事務局長 本田 寿久

特定非営利活動法人

みもぞ

医療・保健介護・
福祉・教育に関する事業
共生社会の実現

不動産 売買・賃貸・管理・店舗は

本田商会

〒662-0051 西宮市羽衣町5-23

電話：0798-38-7560

FAX：0798-38-7561

お気軽にご相談ください。

ヤマザキ

世界のパン
ヤマザキ



KINSAN

夢に近づく
夢を産み出す...

近畿産業信用組合

総合コールセンター

0120-111-019

「縁」から「結」の集い

2012年9月17日渡波公民館 第12次、第17次に参加
神月 彩乃

道中におきまして、楽器コントラバスのことでお気を遣わせてしまったり、他の参加者の方に狭い思いをさせてしまった、申し訳ありませんでした。いつか東北で弾きたいと思う気持ちはあるけれども、ゆかりのない土地で演奏の場を作るということはなかなか自力ではできません。

この度は岩村代表はじめ神戸国際支縁機構の皆様のご尽力のお陰で、私の夢をひとつ叶えて頂きました。

次回は仲間を連れて、より豪華なアンサンブルをお楽しみ頂ければという二つ目の夢ができました。石巻市渡波の地域の皆さまの前で演奏するお膳立てして頂くばかりでしたが、喜んでいただいて、本当にありがとうございました。

もっともつと上質な演奏をご提供できるよう、より精進してまいります。

田んぼ作りのボランティアも、表現として正しいかどうか分かりませんが、とても充実感や満足感を感じることができています。四月に枯れ草ばかりだった土地に花が咲いているのを今回

見つけて、なんだか涙が出そうになりました。演奏会シーズンをはけたら、また参加させて頂きたいと思っております。私たちの田、山、湾を、また皆さんと共に守りに行きたいです。



2012年11月20日(火)にも集まろう

ご協力の年会費・浄財を感謝します。(振込順)2011年9月13日～2012年9月30日

岩村義雄、水垣 渉、新免 貢、白方誠彌、阿部捷一、新生田川共生会、酒井 彰、中島信光、小林美沙子、上田利昭、青木秀雄、神戸市パートナーシップ活動助成、日野玲子、溝田悟士、塩屋キリスト教会、西宮西福寺、豊原大成、部落開放同盟兵庫県連合会、有川善雄、中山敬一郎、在日大韓基督教会神戸教会、西上千栄子、安積俊之、忍ヶ丘キリスト教会、藤井 浩、鍋島 隆、原田洋子、神戸宣教協会、菅原光人、高野山真言宗吉祥山西方院、勝村弘也、門谷永久子、貞松 融、赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」、酒井久美子、大嶋善直、神戸松蔭女子学院大学、佐谷文子、川口敏市郎、村上安世、保田 薫、石川満澄、石川久子、岡崎 孝、牧野松代、本田寿久、安立 昇、船木多喜子、岸本 豊、福田啓太郎、穴戸紀彦、手島勲矢、石巻地区森林組合、岸本 実、鈴木淳之介、日野謙一、甲斐田 敏、小谷良一、小谷君枝、山本智也、村上裕隆、後藤真子、吉川 潤

合計3,375,321円

当機構への物資提供を感謝します。

現地の佐藤金一郎氏が学校、幼稚園や、地域にとりついでくださいました。フェアトレード東北もご協力いただきました。

レスキューナウ危機管理研究所、NPO会計事務専門家ネットワーク、財NSEF国際協力緊急支援機構、SOTO禅インターナショナル、キーコーヒー仙台工場、仙台キリスト教連合被災支援ネットワーク、大分県社会福祉協議会、米国Program Director、タイ大使館、JGC CORPORATION、ティーソリューション、広島田舎暮らし屋、NPO法人フリーヘルプ、立正佼成会社会貢献グループ、兵庫県立農業高等学校、社団法人going tohoku、長崎生活協同組合ラコープ、玉龍寺五百井正浩、フードバンク関西、(株)日揮、一般財団法人共生地域創造財団、日本統合医療学会東北支部事務局、仙台のあすと長町仮設住宅、共生地域創造財団、石巻応援酒井勘夫氏、滝山クラブ

- (株)日揮は、石巻市役所に発電機を贈呈
- 西海 馨氏は石巻市役所建設課に重機を贈呈
- ミヨシ石鹸の石鹸、藤木智代氏の厚手靴下、ドライ・ラマ法王日本代表部は鹿妻の阿部勝氏に委ねました。

趣旨に賛同してくださる方は、何口でも結構ですので、ご協力をお願いします。

本会員は、一口 2,000円/1年
賛助会員は、一口 5,000円/1年

郵便振替

口座 00900-8-58077

加入者名 一般社団法人 神戸国際支縁機構

三菱東京UFJ銀行

462(三宮支店) 普通 3169863
神戸国際支縁機構 岩村義雄

編集後記

最近のテレビでは、尖閣諸島問題や竹島問題がたくさん放送され、今では東北の現状を放送することは全くないと言っても過言ではありません。

私は、この春から石巻市へ4回訪れていますが、手つかずの復興の景色が変わることはありません。

自分の足で現地まで行って、今どういう状況なのか、何が必要とされているのか、迫ってくるのが無性に悲しくなりました。テレビ、パソコン、携帯など、日常当たり前のように使い、いち早く情報を得ることができる世の中にも関わらず、なぜ現地に行かないと現状が分からないのだろう。今まで気にしなかった口にする食について、石巻で田んぼや養殖のボランティアを通じて、真剣に考えるようになりました。

神戸国際支縁機構の方向は、「支縁」。人と人とのつながりを繋げていきたいと思っています。道が復旧する、家が再建されるといったように目に見えて分かるものではありませんが、人間が生きていくのに一番大切なことだと思っています。

読者の皆さんにも感想、ご批判を寄せていただきたいと思います。新聞でも、負傷者、行方不明者数がとりあげられなくなっています。忘れられています。ただ今は被災地の現状を知ってもらえたらと思っています。

後藤 真子